

”コロナに負けない”信州応援基金 助成金使途の概要

活動内容・助成金使途概要	類似取組
◇こども食堂、子どもの居場所など利用者のアルコール消毒液、手洗い用せっけん、マスク、手袋などの購入	5
◇こども食堂再開にあたり、専門家（医師、保健所など）による研修会開催	1
◇3密回避のために網戸の設置、換気用として床置き扇風機購入、屋外へのベンチ設置、広い部屋に改善するなどの措置を行う	2
◇福祉施設の団体を見学等で訪れてくる方々、こども食堂利用者などの健康チェック（体温測定）をするため、人に近づくことなく測定可能なモニター付き体温計を導入する	3
◇外出自粛により通常登校できず学校活動困難時の自宅・寮待機生徒とのオンライン授業を大型スクリーンで実施するためのプロジェクターや関係設備購入	2
◇学校に通うことが困難な児童・生徒、養護施設の子どもたちや高齢者施設などを対象とした講座・授業等をオンラインで行うために、パソコン・関係ソフト・タブレット等の購入や通信施設整備、Zoomシステムの有料支援契約を行う。	6
◇休校や分散登校期間が長く続いたことで、児童に習熟度に差が生じている。これを解消するため、スタッフを増員し学習支援を充実させる	1
◇生活困窮者支援のためのシェアハウスに、換気のための設備・空気清浄機などを設置する	1
◇病児の家族支援 難病・障がいを持って生まれ子どもの家族をサポートしたいというママでマスクの制作チームを結成。そのチームスタッフへの謝金や関係経費	1
◇子育て世代保護者支援団体が監修・作成した、「子どもの個性にあった効果的な対応を考え出すための方法」を自宅で学べるよう、教材をオンラインで配信する費用	1
◇市営公園などの使用制限がされているため、子どもの居場所の充実化が必要。そのための遊具増設などに関わる費用	1
◇空き家や活用されていない空き店舗を借り、居宅介護支援事業を軸にした相談支援事業、子育て支援事業（子連れ出勤や小規模託児所開設）を行うこども食堂とフードパントリーを各地域のこども食堂・生活困窮家庭への地域住民参加による生活支援物資の提供を行うため、物資運搬や人を乗せての移動などを新たに行う。	1
◇中学と高校での遠隔授業品質向上のための先生への勉強会とパソコンやインターネット回線の速度環境整備支援	1
◇24時間365日無料相談・同行生活支援を通じて子どもや生活困難者の不安解消とケア、食材や生活必需品の提供など自立に向けた支援として、こども食堂への送り迎えを新たに行う。また、こども食堂とフードパントリーを各地域のこども食堂・生活困窮家庭への地域住民参加による生活支援物資の提供を行うため物資運搬や人を乗せての移動などを新たに行う。	1
◇市民活動団体等のネットワークを活かして、市内小・中学生を対象に、地域資源を扱った課外学習やボランティア活動の場を設ける。	1

* 1 団体で複数の取り組みをしているため、取り組み団体数は、助成団体の22を上回ります。

” コロナに負けない” 信州応援基金 助成団体の活動内容概要

「20万円助成コース」19団体、「50万円助成コース」3団体

審査 NO	申請団体名	助成金額 (円)	予算総額 (円)	活動名称	内 容
1	長野地域こどもカフェ プラットフォーム	200,000	207,201	コロナ禍でも安心安全な子どもの居 場所運営支援事業	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からこれまで活動を休止・縮小していた長野圏内の信州子供カフェ(子ども食堂)の実践団体(32 団体)に調査を行った結果、アルコール消毒液、マスクなど衛生用品の入手が困難なのでまとめて購入して配布してほしいとの要望が寄せ られたことから、活動を再開するにあたり、最大限の予防策を講じるために必要な非接触体温計、消毒用アルコール、手洗い用せっけんな どを一括購入し、小規模な団体にも必要な物資が行き渡るよう各団体に配布及び貸し出しを行う。 更に、こどもカフェ(子ども食堂)再開にあたり、不安を抱える団体も多いことがアンケートから明らかになったため、専門家による感染症 (医師を予定)および衛生管理(長野保健所より講師派遣)について学ぶための研修会及びワークショップを開催する。 子どもカフェ(子ども食堂)ノ実施団体がコロナ禍以前同様に子供の居場所運営に尽力できる環境を整える必要がある。
2	特定非営利活動法人 新田の風	200,000	201,440	「仲間づくり・住民同士で支え合い・ 住み慣れた地域で最後まで」 活動の一環として今回申請の活 動「ふれあいサロン」「よろず相談 所」等の運営	ふれあいサロンは地域の高齢者の方々の仲間づくりを目的に7年前より実施。当NPO法人の活動目的「安心して老いを迎えられるまちづく り」をベースに「仲間づくり・住民同士で支え合い・住み慣れた地域で最後まで」を運営方針としている。この事業を継続するために ①「3密」及び冷房クラスター回避のための、換気実施のため、窓を開放する。蚊及びその他虫対策として「網戸を設置」する。換気用として 床置き扇風機2機設置する。 ②参加者用に消毒液を用意する。 ③屋外交渉スペースとして、事務所前にベンチ2個を設置し、できる限り3密回避を図る。
3	認定NPO法人 侍学園スクオーラ・今人	200,000	200,200	若者の自立就労支援する学園活動 をサポートするオンライン授業	外出自粛により通常登校できず学校活動困難時の自宅・寮待機の生徒とのオンライン授業の運営や、分散登校時の授業を大型スクリー ンで対応するための設備導入。および登校時の予防用マスクを備品することにより生徒の不安解消やメンタルフォローにより安全安心を保 つ。
4	特定非営利活動法人 ふじみ子育てネットワーク	150,000	333,800	野外保育森のいえぼっちにおける 幼児の野外預かり保育休園中の園 児への発信及び衛生用品購入	(既存の活動の目的) 子どもの育ちに大切な、直接体験の保障を野外で行う。異年齢の子どもたちの集団形成による社会体験の保障。 そのために、消毒アルコール、マスク、石鹸、ペーパータオル、スプレーボトルと、親子遊び工作材料の購入 (コロナ禍で特別な対策が必要となった理由) 野外保育で日常的に3密の状態は少ないものの、園児の保護者に濃厚接触者が出たことで、 休園や感染防止対策を厳重に行うことを余儀なくされた。
5	一般社団法人 ふれジョブ長野支部	200,000	200,000	『駅の待合室』機能拡充事業	小海駅舎内JAハケ岳小海駅前支所跡地を有効活用して開設する『駅の待合室』において、当初は一定数の相手を集めて開催する予定だっ た公開講座(セミナー)をオンライン会議アプリZOOMを活用してオンライン形式で開催する。
6	特定非営利活動法人 ITサポート銀のかささぎ	200,000	305,000	児童養護施設でのコロナに負けない ICT学習支援	コロナウイルスの影響で学習進度が遅れている児童養護施設の子どもたちに通信機能付きタブレットを貸し出し、学習用アプリを使ったプロ グラムを提供し、学習支援を行う。
7	いいやまこども食堂	95,000	257,000	いいやまこども食堂 新型コロナウ イルス感染症対策	・相対的貧困家庭、高齢者の一人暮らしへの食事支援 ・生活応援企画として、近隣の企業、個人からの寄贈品によるフード、生活用品のマルシェを行っている。
8	社会福祉法人 日本聴導犬協会	200,000	265,000	ご来所デモンストレーション用コロナ 対策	①施設内にて聴導犬・介助犬の訓練・育成を行っている。 ②施設内は完全バリアフリーで、肢体障がいの方や、聴覚障がいの方が候補犬と一緒に宿泊して、訓練して頂いている。 ③毎年、関東、近畿、関西などから聴導犬・介助犬の研修先として民生・児童委員を中心としたバスツアー約60件、年間約2000人が小協会 に訪れています。各地から見学にいらっしゃる方々に、聴導犬・介助犬のデモンストレーションを通して、聴覚障がいの方や、肢体障がい の方の置かれている状況をお伝えし、聴導犬・介助犬の普及活動を行っている。この活動を継続するために、施設を訪れてくる方々に対し、近 づくことなく測定可能なモニター付き体温計を導入したい。
9	認定NPO法人 長野サマライズ・センター	200,000	619,940	コロナ禍から次へー障害・病気の児 童・学生のための必要なサポートを	聴覚障害・発達障害・情報処理認知障害・病児など、教育のための情報を十分に受け取れずに、孤独に学びを欲しているお子さんを減ら すための最新の遠隔支援のしくみを有効にマッチングさせ、支援環境を整える絶好の機会としたい。 1. 貸出用機材の購入準備;できる限り、双方向型のオンライン授業の支援に対応できるよう、必要なパソコン、タブレットなどの機器の 貸与準備 2. 大学のシステム(アプリ不要のブラウザのみで使用できる新システム)の使用契約と協力企業等の音声認識を融合したシステムの使用 契約、Zoomシステムの有料支援契約、 3. 県内外の情報支援活動(要約筆記、文字通訳等)を行う組織・個人を募り、多様な遠隔支援の手法を研修(Zoomと支援システムを融合さ せて) 4. それらの中から公開可能な情報を、SNS等で拡散しながら、活用できる現場の情報を必要としている当事者・保護者・教育機関に届ける
10	特定非営利活動法人 キッズウィル	200,000	573,980	新型コロナウイルスの影響に伴う学 習支援強化事業	キッズウィルでは、第三の居場所において、貧困、ひとり親等の社会的課題を抱える家庭の児童に対し宿題を中心に学習支援を行ってい るが、新型コロナウイルスの影響による新たなニーズに対応するため、スタッフを臨時的に増員し学習支援を強化したい。臨時スタッフには、 元教員や、休校やりリモート講義が続き遠地の大学に通学できない大学生などを雇用する。少人数ごと部屋を分けて行うには机や椅子が不 足することから、必要数を購入する。
11	清泉女学院大学・ 清泉女学院短期大学	500,000	1,004,000	こども食堂 丘の上レストラン清泉	仮設住宅入居者が「こども食堂」に参加し、食事の準備をして体を動かしながら異世代と交流することにより、「こころ」と「からだ」のダメー ジを和らげる。また、「こども食堂」で、子供が学生ボランティアから学習支援を受けることにより、食事の準備による親の負担軽減ばかりでな く、家庭学習による親の負担も軽減する。

審査NO	申請団体名	助成金額(円)	予算総額(円)	活動名称	内容
12	特定非営利活動法人 サポートセンターとまり木	200,000	400,000	コロナ禍だからこそ必要!! 生活困窮への相談支援活動	<ul style="list-style-type: none"> ・相談事業 困窮状態の市民からの直接的な相談にのる。官民間問わず他の支援機関からつながってくる相談を通常通り受ける(5のニーズ1、2、3)。 ・シェアハウス事業 困窮する人の中でも、住居を失った人に対して相談と並行しながらのシェアハウス事業(事業自体は長野県元気づくり支援金による従来事業)を新型コロナウイルス感染症やその影響を理由に中断することなく運営する。加えて、複数利用者のシェアハウスでの新型コロナウイルス感染症への罹患などがないように細心の注意を払いながらの運営を行う(5のニーズ1、2、3)。 ・関連して、セーフティハウス内に空気清浄機を設置することによって、他の気管支疾患等への罹患を減らし、コロナ禍での無用な不安心配を減らす。 ・各事業のバックアップ コロナ禍でも通常通りあるいは通常以上の活動を展開するために必要な事務的なバックアップ(5のニーズ4)・活動の継続 活動が続けることによって、通常通り発信し、ひろく寄付などを募る(5のニーズ5)
13	特定非営利活動法人 安心生活支援ごみ	341,024	341,024	寄り添い事業	<p>介護保険制度等の対象にならない高齢者や障害者が、在宅での生活が継続できるよう生活支援のサービスを行う。また、介護認定者でも事業所がコロナウイルスの影響で休業した際、日常生活が継続できるよう生活支援サービスを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出支援(買い物(代行含む)、受診の付き添い) ・入浴の支援 ・家事支援
14	一般社団法人 笑顔の花	200,000	500,000	患者家族滞在施設マザーハウス 病児家族のサポート活動	<p>①病児の入院付添による家族の食事支援 病院と同じ地元で暮らす母親が協力助け合い各家庭で料理した食事の差し入れを行う有志による、ボランティア活動。手作りの食事のお届けと共に、カウンセリング(傾聴)も受けます。家族や親族居場所、病児きょうだいのあずかりや見守りなど、病児家族の身心の休養、入浴など日常を取り戻せるために、患者家族滞在施設マザーハウスを拠点に環境を活用して行きます。</p> <p>②病児ママの就労支援 難病・障がいを持って生まれ子どもの家族へ向けた積極的社会参加へ繋げる支援活動です。コロナにより在宅でのリモートワークに移行される中、社会が在宅でできる仕事へ移行する中、病児ママは子どもの入退院や治療により、外で自由に働くことがもともと困難なため、自分に合った働き方を求められています。笑顔の花では病児ママと家族をサポートしたいというママが仲間となりマスクの制作チームを作りました。マスク装着が今後必須となるなか、時代にニーズと共にデザインや心地よさ快適性に富んだプロダクトの制作を広げて行きたいと思いません。</p>
15	子どものミカタプロジェクト	200,000	838,089	子育てコミュニティスクール	<p><対象> ・子どもへの対応に苦慮する子育て世代の保護者と子どもに関わる支援者 <対象の抱える悩み・状態> ・子どもへの適切なかわり方がわからず、自信がもてず不安になりやすい。・子どもの問題に注目がいきすぎ、イライラしがちで叱ってばかりになる。・かんしゃくが激しい、やだやだが強い、園や学校を嫌がる、ゲームばかりする、宿題をしない、生活リズムが崩れている、保護者への反抗や暴言が激しいなど、「こんな時、どうしたらいいの?」という問題に直面していて、適切な関わり方が見いだせない。・外出自粛や長期休校中に、ほかの保護者との社会的なつながりが失われ、孤立することによるストレス、不安、恐れが増大し、子育てにうまく向き合えない。</p> <p><提供内容> ①学び 子どものミカタプロジェクトが、監修・作成した、「4つのミカタ」(子どもの個性にあった効果的な対応を考え出すための方法)を、受講者それぞれが、ご自宅で自分のペースで学べるよう、以下の4種類の教材をオンラインで配信します。 【配信教材】 ①「4つのミカタ」電子書籍&特別副読本(※) (※)「ろうきん安心社会助成金2018」の助成により作成した、子どものミカタプロジェクト監修によるオリジナル教材 ②「4つのミカタ」ミニ動画セミナー(20分程度) ③ 毎週1通届くメールワーク(2か月 コースは8通/9か月コースは36通配信) ④「4つのミカタ」を活用したほめカアアップ お役立ちブック ⇒上記教材を、自宅で受講者のペースで学んでもらう。その中で出てきた気づきや質問や悩みなどは、いつでもミカプロメンバーに相談できる特設フォームを設置。ここから、ミカプロメンバーに会わなくても、質問や相談ができるようにしました。(条件1・2に対応) ②つながり促進 コロナ禍で、外出が制限されることで、孤立化が進みます。孤立は、虐待やDV等、様々な問題のリスク要因となりえます。そこで、受講者とミカプロメンバーが交流できる特設掲示板を設置しました。この中で、教材を学んでの気づきや質問などについての回答を、ミカプロメンバーから投稿します。届いた質問に、臨床心理士メンバーが対談するかたちで、5分~10分程度の音声対談動画を作成します。ミカプロメンバーが投稿した回答について、受講者がこの掲示板↑で、気づきをコメントすることで、気づきや学びを深め、一方的な教材配信にとどまらない丁寧なフォローを行います。 また、ZOOMを使ったオンラインの「ママのミカタカフェ」(子育て座談会)も3回計画しております。この中で、時間を共有したかたちのやりとりを行い、受講者それぞれの質問や、お悩みに相談できる機会をもち、フォローを行います。この様子も、動画に撮影し、参加できなかった受講者には、掲示板に投稿し、その内容を受講者同士でわかちあおうと思っています。⇒上記2つのフォローにより、受講者とミカプロメンバーが社会的な関係性を構築することで、孤立を防止し、かつ、参加者それぞれが、自分達親子の子育てをよりよいものへと学びを深める一助となるようサポートします。</p>

審査NO	申請団体名	助成金額(円)	予算総額(円)	活動名称	内容
16	みあさの森	200,000	1,195,000	野外親子活動の拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・(野外における)小中学生とその親が専門家のアドバイスを受けながらつくる森でのツリーハウスづくり。 ・未就学児とその親が安心して遊べる遊具やいす・テーブルの整備 ・夏休み・帰省したり旅行に行けないこどもたちの夏休みの居場所づくり ・上記活動における野外調理場の整備 ・zoomやメールなどオンラインでの育児相談、HPの開設 ・イベントの告知などの宣伝
17	特定非営利活動法人ハングリー8	200,000	250,000	居宅介護支援事業、相談支援事業、子育て支援事業	安曇野市内の空き家、もしくは活用されていない空き店舗をかり、改めて居宅介護支援事業を軸に相談支援事業、子育て支援事業(子連れ出勤や小規模託児所開設)に繋げたい。
18	NPO法人子どもサポートチームすわ	500,000	550,000	子ども・若者を孤立化させないための、フリースクール活動のオンライン化に必要な施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ①通学が困難になった子ども・若者へのオンラインでの学習支援。 ②通学が困難になった子ども・若者へのオンラインでの音楽活動・演劇活動。 ③高校生のレポート学習支援と進学・就職オンラインセミナーへの参加の推進。 ④通学生と在宅生の活動をつなぐ活動の模索と推進。 ⑤通学が困難になり引きこもった家庭へのオンラインでの面接相談。 <p>これらの生徒に対して安心安全な環境を提供するために、インターネット環境がない家庭にはタブレットを貸し出してオンライン化を図る。</p>
19	学習支援センター実帰舎	200,000	助成50万 867,420 助成20万 567,420	テレビ電話会議システムを利用した「遠隔授業」を普及するプロジェクト	<p>手順1.まず不登校生徒への学習支援として、学習支援センター実帰舎と“はぐルッポ”の不登校生徒への遠隔授業の品質向上の実証実験を2020年に行う。</p> <p>手順2.次に長野県中信地区の公立学校(主に中学と高校)へ、遠隔授業の品質向上の“勤所(かんどころ)”を①先生への勉強会と②生徒を交えた練習会形式で、一校一校普及させていく。現実的には各学校のパソコン機材やインターネット回線の速度環境まで把握した上で、学校の現状に応じた対応を行う。</p>
20	特定非営利活動法人コミュニケーションネットワーク信州	200,000	814,000	高齢者、障害者対象オンラインによるパソコン・スマホ教室	高齢者・パソコン初心者・障害者などの方々が対象です。コロナ禍で外出を躊躇している高齢者や初心者および障害などで外出が困難な方でパソコン教室に通えない方の力になればと思います。
21	特定非営利活動法人ホットライン信州	200,000	3,700,000	新型コロナに負けない！子どもと家族を支えよう	<p>新型コロナの影響を受け、生活弱者である子どもと家族が明るく元気になる活動を以下展開する</p> <ul style="list-style-type: none"> ①24時間365日無料相談・面談・同行生活支援を通じて、子どもや生活困難者の不安解消とケアや食材や生活必需品の提供など自立に向けた支援方法として、こども食堂への送り迎え。 ②こども食堂とフードパントリーを各地域のこども食堂及び生活困窮家庭への地域住民参加による生活支援物資の提供を行うための物資運搬や人を乗せての移動など。 ③地域のコミュニティの居場所作りとして、こども食堂の食育・学習・遊び学習サポート・親子相談の直接支援とケアなど3密を回避に向けて屋外などの広範囲の広さ居場所の設置を図る。
22	(特非)ぐるったネットワーク大町	200,000	525,000	学校休校で失われた地域学習を補完する、北アルプス課外教室	市民活動団体等のネットワークを活かして、市内小・中学生を対象に、地域資源を扱った課外学習やボランティア活動の場を設ける。内容については、事前に学校のニーズをヒアリングして調整し、できるだけ教科と関連付けることにより学校の協力も仰ぐ。課外学習なので参加は希望者のみとするが、授業内で扱ってもらえるようであればなお良い。いずれにしても今後につながるよう、丁寧に進める。回数は6～8回とし、具体的には、次のようなことから選んで実施したいと考えている。1回はバスを使った現地見学も行いたい。

助成金総額； 4,986,024